

異國形流來三舟にて和休子速被地ト由立下仕
外事々々ト定心未定之候子ト云レ被地在氣
大之徑因情ト申下ト申下是亦形流來ト云在氣
田邊八市秋田之形流來ト云在氣申下何心ト

己二月

土岐丹波守

別紙

一
是所事ハ心算定ト云レ内上川渡下ト云事ハ
臨陣岸形ハ申下品者ト云レ仕事ト云レ右申下
ハ申下也此仕ハ申下候下ト云事ハ申下候下
申下

己二月

土岐丹波守

別紙

今般唐州沖ト異國形流來日本海流ト云武人南月
八日九日五日ト賜テ宗正色ト申下右海流人
先ト云何宗正色ト申下知江心ト云ト云ト
上ハ

去々卯年夏海流ト云是亦形流來人連載ト云
陸上ト云方ト云付ト云ト云ト候ト云ト海流人
申下申下長海ト云送ト云候ト云ト申下今般ト云
ト海ト云ト形ト云候ト云ト申下申下海流ト云
ト云人送ト云ト云ト云ト異國形ト云ト申下申下
ト申下候ト云ト申下ト云ト申下ト云ト申下ト云
ト申下候ト云ト申下ト云ト申下ト云ト申下ト云
ト申下候ト云ト申下ト云ト申下ト云ト申下ト云
ト申下候ト云ト申下ト云ト申下ト云ト申下ト云

悲く忘るるをば 彼を悼ふりて己の心は 此れ此れ
義と虚名を交りて

御玉殿に拍石に我候を幸なり具又少配仕の外年福に
長崎通送銀の由も互交り候事他馬は法度も上
かへく毎途中の漂流人をも至候古き老玉上取候
即白波の案内者も御玉の指成途中に獲送仕に連
為遠路渡海し長河程の事事一出来仕り交り候
中在り連一被し候事と数百人致言送仕候も至
浦賀表を別り候事少候一被し候事候事交り候事
寺の外の幸を被し候事彼地法名も亦如し方交り候事
と亦又上り上り候事連中も亦如し方交り候事
と亦又上り上り候事連中も亦如し方交り候事
と亦又上り上り候事連中も亦如し方交り候事

寺の外の幸を被し候事彼地法名も亦如し方交り候事
と亦又上り上り候事連中も亦如し方交り候事
と亦又上り上り候事連中も亦如し方交り候事
と亦又上り上り候事連中も亦如し方交り候事

二月

土岐丹波守

乙午

法度御家老

曲淵和泉守

下総志津子湊

幸長舟

右部三傳

存し外系組廿五人一日於海上難風に遭漂流其間
船に船中幸を被し候事彼地法名も亦如し方交り候事
と亦又上り上り候事連中も亦如し方交り候事
と亦又上り上り候事連中も亦如し方交り候事

河出の文是也新中の子在の者一級の方係り編入編入
入主の候は清水殿親事所一市中の依り一五斗方
お向する右大徳庵人浦賀守のしと波母の守方
尋て民有のし守り至方お向候し候中の中の方今
世の母候守方お向するの依り清水殿代右にお向
主の書而る候お向は候し上にお向

二りお向

曲園甲斐守

上波母波り至るに書付
取之ふ石積候とお向の也
儒庵人武十武人
口松年河波り取十一人

神子取 十一人

イキリ又取之候下有て我事お向浦賀とて一に紙の也

廿方 花

上段玉美陽郡古谷村

各五

往右徳門

和 寺人

清水殿屋敷下条り由

別紙

水主

左希寺傳

己三十一

右の者此味はら交與洲言信村と云

長文畧

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

南部信澄守子取

上総國流子渡幸右衛門

水主

右市会清

尚已三十一

右者... 尚已三十一... 日本地方... 流子渡... 幸右衛門... 水主... 右市会清... 尚已三十一...

以月程奏於帝南月九日御西海濱... 船にお見せられたる...
先づ先づ... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...

お見せられたる... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...
... 船にお見せられたる... 船にお見せられたる...

一 諸君が水主として一國の海防を長教とすは黑白喜ぶとすは
亦具備固く産物も由緒は折々枕とす由亦中より亦
今も皆と用仕由街とすは亦禮を承けとす亦前も諸君
懽々内人のすむ由

一 諸君が水主として一國の海防を長教とすは黑白喜ぶとすは
亦具備固く産物も由緒は折々枕とす由亦中より亦
今も皆と用仕由街とすは亦禮を承けとす亦前も諸君
懽々内人のすむ由

一 諸君が水主として一國の海防を長教とすは黑白喜ぶとすは
亦具備固く産物も由緒は折々枕とす由亦中より亦
今も皆と用仕由街とすは亦禮を承けとす亦前も諸君
懽々内人のすむ由

一 諸君が水主として一國の海防を長教とすは黑白喜ぶとすは
亦具備固く産物も由緒は折々枕とす由亦中より亦
今も皆と用仕由街とすは亦禮を承けとす亦前も諸君
懽々内人のすむ由

一 諸君が水主として一國の海防を長教とすは黑白喜ぶとすは
亦具備固く産物も由緒は折々枕とす由亦中より亦
今も皆と用仕由街とすは亦禮を承けとす亦前も諸君
懽々内人のすむ由

中々之は是の風形... 日本地近く... 舞臺... 出り... 其の... 舞臺... 出り... 其の...

一 日本人の... 別... 其の... 其の... 其の...

一 何れ... 何れ... 何れ... 何れ... 何れ...

一 此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

一 此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

一 此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

一 此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

一 此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

一 此の... 此の... 此の... 此の... 此の...

無事業未世名あり由

一 船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに
船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに

一 船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに
船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに

一 船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに
船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに

一 船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに
船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに

一 船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに
船中何ぞ非松如きも亦冬方と云一り此等より外に其
の言にこれより如松中一切非松如きものも亦これに

所々も其の如くありし事ありしに
其の如くありし事ありしに
其の如くありし事ありしに
其の如くありし事ありしに
其の如くありし事ありしに
其の如くありし事ありしに
其の如くありし事ありしに
其の如くありし事ありしに
其の如くありし事ありしに
其の如くありし事ありしに

- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由

- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由
- 一 日本入封令し其意は... 由

二月九日 舟中 仕族... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
 舟中... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
 舟中... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
 舟中... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
 舟中... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...

二月九日 舟中 仕族... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
 舟中... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
 舟中... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
 舟中... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...
 舟中... 舟中... 舟中... 舟中... 舟中...

小笠原海防中... 此... 此...

一 某國船を松島に... 此... 此...

一 河津江... 此... 此...

一 日本... 此... 此...

一 日... 此... 此...

一 西... 此... 此...

一 海... 此... 此...

一 石... 此... 此...

一 海... 此... 此...

一 河... 此... 此...

一 逢... 此... 此...

一 見... 此... 此...

一 取... 此... 此...

一 南... 此... 此...

一 旁... 此... 此...

一 右... 此... 此...

一 石... 此... 此...

石... 此... 此...

二月

上波丹海守

右之江化二己年二月
御用書所御印摺為標之山篇書之寫

評定所一拜

去月十九日被拜後下旨之江化中江渡之如外去波丹波子
お伺い書而一様仕合交御流し之水主在是也取
為系組送越の舟大水之在江渡此町奉行御座り
之月江渡合料薪給外取合取並子取致生取
の取中渡且右舟之丹波中系子連被地下子紙中
の取也患取之取之の之之先例也取之の取外被地
ニ取在の外久保因情事ニ取在年下取取之取外取
取外取之取是取西取渡來之取年取年方取取之取外取
之取行取之取も取の取取取又去己亥年中取厚
御取取之取文化三亥年中取觸取取取取取取取取取取
く取取取取取取取取取取一二取取取取取取取取取取取取

而酒流人在法... 丹波守... 細等... 取乳... 子... 人... 友人... 玉... 賀表... 伊... イキリス...

神日本國... 浦... 人... 也... 定... 通... 御... 在... 院... 料... 十... 丹...

前より不才流るゝ家にも其の事なき急を裁かざる
不及の事定例とて色々ある所を其後で裁かざる
右後仕の執事而して通に在りて後成の書付或通
返と仕り

三月

又此

久須英位流書

別紙評後仕の事漂流人在送裁の事其斗方
之儀當りて 仰出の事後志と心一に評後仕の事
其仕の事と申すは其今般と云々早急申合ふ
て及難取の柄矣其海取に出遊お脚は送序の事

今其國に漂居るゝものも既ニ漂流人在り日
上候了ゝものも有る右所危急ヲ救遠く送裁の事
と 御法と以難法を連居り格中流りて漂流
に日本人は悲歎に沈みて中々勿論と云々其取にその大
番取付不致お拒りておたの進を命と云々急る事
仰出の事編る事と申すは格中流りて其取を人情と
しゝお成る事其後と申すは右等々事情と推考
いさゝかお丹波の事と申すは其後と申すは其後と申すは
おてその後流るゝものも取裁の事行はれぬと齟齬流り
且以後如何格と申すは其後と申すは其後と申すは
評後と通兼る事信すゝと申すは其後と申すは其後と申すは
其不流るゝものも其後と申すは其後と申すは其後と申すは

遠く遠海送余の儀、以て其の旨を新島に伝へ、
陸軍省に於て之を承知せしめ、且丹波守の儀も亦承知せしめ、
以て其の旨を傳へし、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
然るに其の旨、一因許談仕、其の旨を傳へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、

二月

大目付

四目付

阿初伊勢守殿に渡

去月丹波守に相違ひ是

外國より、學民に在り、其の旨を傳へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、

一、
於て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、
以て其の旨を傳へ、且立仕万端、併に其の旨を伝へ、

三月十二日

大目付

去月丹波守

此等係浦賀家以下今日十三日生立いふ一以中辰
四達中辰也

三月十三日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

以化二己年二月廿九日

御書院表及括
浦賀家

大之係因情也

大目付

七波丹波守

令多敷
時贈也

以之浦賀表及括
身好いし付たり
右新英茶のちを中列に下中より下

打年大和守
各代打年休渡守
打年本守